



速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

Leadership Project

妊娠期のストレスと 生後の病気との 関わり

LSP第4回講演

宇田川潤先生

医学科での学びについて



▶医師にとって一番大切なことを「目標に向かって努力すること」と話された宇田川先生

9月10日に同時開催されたリーダーシッププロジェクト(以下LSP)。特別講義室では滋賀医科大学解剖講座生体機能形態学部門教授の宇田川潤先生が「妊娠期のストレスと生後の病気の関わり―医学科での学びについて」と題して講演された。



▶宇田川先生は生徒への質問を交えながら講演を進められた。

宇田川先生はDOSHAD(Developmental Origins of Health and Disease)という概念、胎生期から乳幼児期に至る栄養環境が成人期あるいは老年期の生活習慣病発症リスクに影響するという自身の研究結果を踏まえ、難しい部分は図やたとえを用いながらわかりやすく説明された。宇田川先生によると妊娠初期でも妊婦の母体感染や肥満、ストレスや栄養制限などによる胎内環境の変化や胎内期の低栄養は生後の疾患の発症リスクや脳機能にも悪影響を及ぼすという。日本では低出生体重児の割合が多いと言いつ、妊婦がバランスの良い食事を取るこの重要性を繰り返された。

宇田川先生は昨年まで本校のSSHの運営指導委員をされており「学生に教えるのは難しくもありおもしろい。自分が教えた生徒が立派な医師や研究者として育つとわが子のここのようにうれしい」と微笑まれた。また医学部に求められることとして「みんなを健康にするという目的の達成ため、どうするべきか一人ひとりが考え、自分がリーダーとして動くだけでなくいろんな人と協力して意見を聞くこと」を挙げられた。

最後に宇田川先生は医学部を志す生徒に「覚える知識が膨大で大変だと思うが、モチベーションさえあれば楽しくできる。必ずしも今物理や数学が得意じゃなくても大丈夫。医学は総合的に理系、文系両方の分野の知識が必要なので今学んでいることが全部必ず役に立つので大切にしてほしい」とメッセージを送られた。